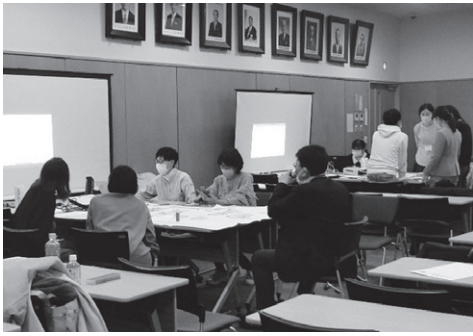


を得たいと考えていたところ、医療福祉連携士という資格があることを知りました。募集要項を見た後も、実習など自



会場風景

分にはハードルが高く感じ講習会受講を迷っていましたが、日本医療マネジメント学会会場での医療福祉連携士活動紹介の場で、医療福祉連携士の会代表理事の中村起也先生に話を伺い、背中を押していただき講習会を受講することに決めました。

講習開始後もオンライン講義を聞いては、知識がうまくつながらず難しいと感じることが多く、実習についても実習先も自分で探す必要がありましたが、近隣病院との繋がりがなかったことや医療福祉連携士とは何かを説明するところから始まり、今振り返っても難易度は高かったと思います。しかし実習後、業務の中で実習先の方と連携する機会があったりと、講習をきっかけに地域の関係者とつながることができ、患者のために自分ができることが少しだけ増えたように感じています。第5クールの集合研修で志の高い受講生の皆さんとグループワークをしたこともよい経験になったと思っています。医療福祉連携講習会受講を終え、これから医療福祉連携士として自分がどのように務めていくのか、手探りの中ですが患者様やそのご家族、そして地域の皆さんの為になるよう今後も努力していきたいです。

2023年度医療福祉連携講習会に参加して

香里ヶ丘有恵会病院 地域連携室 山本 恵梨子

私は、病院の地域連携室で事務として勤務しています。能力を磨きたいと考えていたところ医療福祉連携士という認定資格があることを知り、今回ようやく受講することができました。

第1クールから第4クールまでのWebでの講義と並行しての実習は、主に日頃から連携している地域包括支援センターや病院、クリニックにお願いしました。実習の依頼や日程調整、実習後のレポート提出は、時間に追われ想像以上に大変でしたが、日頃連携している事業所の業務内容や実情をより知ることができ、今

後の連携業務に活かせるものとなりました。

5クール目では、一緒に学んでいた方々とやっとな顔を合わせることができました。グループワークは、それぞれの立場から意見を出し合い、資料作成、発表と、とても有意義な時間を過ごすことができました。

今回の講習会では、さまざまな制度や医療、看護、福祉等、多くの学びがあり、又、大変なのは自分だけではなく、場所は違っても頑張っている仲間がいると思える良い出会いもありました。

ご指導いただきました講師の先生方、本当にお忙しい中、実習を快く受け入れてくださった病院や事業所の方々、ご縁があって一緒にこの講習会を受講できた仲間との出会いに感謝し、今まで以上にそれぞれの立場や状況を理解した連携関係を築けるよう、さらに連携の輪を広げられるよう、今後も医療福祉連携に取り組んでいきたいと思えます。

支部学術集会開催報告

第11回群馬県支部学術集会

学術集会会長：医療法人社団美心会黒沢病院院長

伊藤一人

2024年1月28日(日)に黒沢病院美心ホールにて、「健康寿命の延伸をめざして」を主題に学術集会を開催いたしました。

基調講演は「県民の健康寿命を延伸するために群馬県が実施していること」と題し、群馬県健康福祉部課長の武智浩之先生に講演をいただきました。

教育講演では脳神経外科医育成システムについて埼玉医科大学国際医療センターの鈴木海馬先生、ランチョンセミナーは潰瘍性大腸炎の最前線の診療について済生会宇都宮病院の田原利行先生、前立腺がん検診について群馬大学大学院医学系研究科の関根芳岳先生に講演いただきました。シンポジウムは激変する不妊治療マネジメントについて、関 守利先生(セキールレディースクリニック)を座長に、産婦人科、泌尿器科、内分泌内科のエキスパート4人による講演と討論が行われました。一般演題は様々な職種より20演題の発表がありました。

当日は医師、看護師、技師、事務職、ソーシャルワーカー、学生など総勢139名の方にご参加いただきました。皆様のご協力のもと、無事に学会が開催できましたことを厚く御礼申し上げます。